

第4章 仕事の現状や状況

1. 趣旨と目的

ここでは現在の職業の現状や状況に関する設問の部分を検討する。設問は、仕事のやりがいや達成感、仕事での自律性や裁量、仕事での能力発揮や成長、同僚や関係者との関係、キャリアアップや収入の安定性、他を聞いている。具体的な設問としては、「1.仕事で自分の個性や能力を発揮できる」、「2.仕事に充実感や達成感を感じられる」、「3.仕事では手順や方法を自分で決められる」、「4.仕事の目標や計画を自分で決められる」、「5.仕事を通じて色々なことが学べる」、「6.仕事を通じて成長を実感できる」、「7.仕事は社会に役立っていると感じる」、「8.仕事は人の役に立っていると感じる」、「9.同僚と和気あいあい、協力的に仕事ができている」、「10.外部の関係者と良い関係で、協力的に仕事ができている」、「11.仕事に必要な知識やノウハウを学ぶ機会がある」、「12.顧客との関係で気を使うことが多い」、「13.ミスが無いよう気を使うことが多い」、「14.自分の職業では勤続年数に応じて賃金が上昇していく」、「15.自分の職業ではキャリアアップ／昇進の道筋が明確である」、「16.自分の職業では年収はおおよそ安定している」、「17.自分の職業は引越を伴う転職の可能性が高い方である」、「18.現在の職業をずっと続けていきたいと思う」の18問がある。これに対して、「現在の職業についてお聞きします。以下の項目について Yes やや Yes どちらともいえない やや No No わからない で回答してください。」として、この5段階に「わからない」を加え回答を求めている。

また、この設問の次に「全体として現在の職業面の満足度を0～100（満点）で表すと何点になりますか。だいたい満足しているを50として、点数化してください。」という設問があり（「職業満足」）、職業の現状や状況の18問との関係を見ることにする。

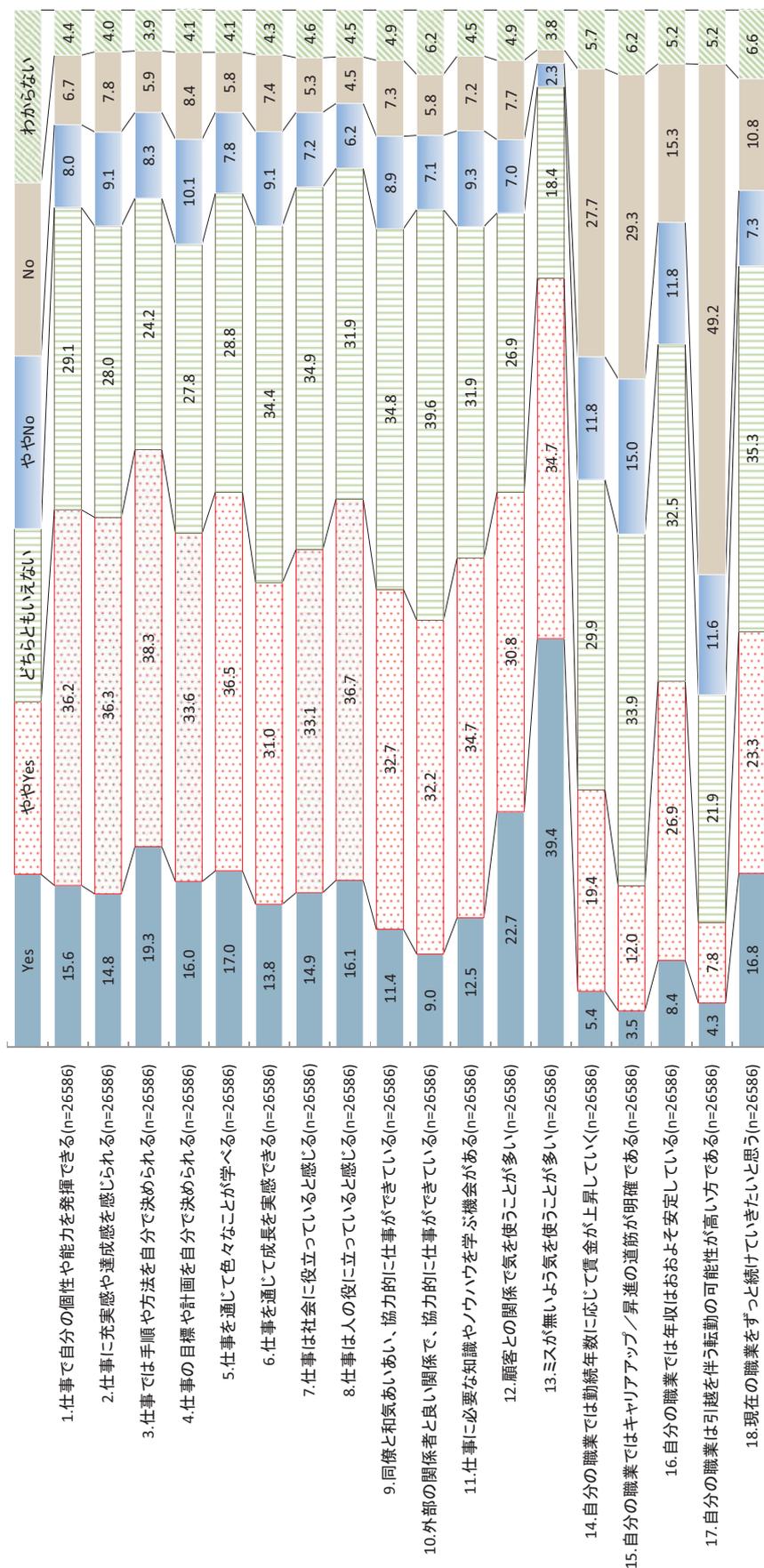
2. 全体としての仕事の現状や状況

図表4-1に18問に対する「Yes」、「ややYes」、「どちらともいえない」、「ややNo」、「No」、「わからない」の回答を度数とパーセントで示している。これを図にしたのが図表4-2である。「Yes」と「ややYes」を加えた割合で見ると、これが高いものが「13.ミスが無いよう気を使うことが多い」、「3.仕事では手順や方法を自分で決められる」等である。逆に「No」と「ややNo」を加えた割合が高いものとして、「17.自分の職業は引越を伴う転職の可能性が高い方である」、「15.自分の職業ではキャリアアップ／昇進の道筋が明確である」、「14.自分の職業では勤続年数に応じて賃金が上昇していく」等がある。

図表4-1 全体としての仕事の現状や状況

	Y e s	や や Y e s	い ど ち ら な い も	や や N o	N o	わ か ら な い	計
1.仕事で自分の個性や能力を発揮できる	4,154 15.6	9,620 36.2	7,749 29.1	2,117 8.0	1,786 6.7	1,160 4.4	26,586 100.0
2.仕事に充実感や達成感を感じられる	3,931 14.8	9,656 36.3	7,453 28.0	2,416 9.1	2,061 7.8	1,069 4.0	26,586 100.0
3.仕事では手順や方法を自分で決められる	5,142 19.3	10,174 38.3	6,447 24.2	2,194 8.3	1,579 5.9	1,050 3.9	26,586 100.0
4.仕事の目標や計画を自分で決められる	4,243 16.0	8,935 33.6	7,403 27.8	2,694 10.1	2,223 8.4	1,088 4.1	26,586 100.0
5.仕事を通じて色々なことが学べる	4,517 17.0	9,710 36.5	7,660 28.8	2,074 7.8	1,538 5.8	1,087 4.1	26,586 100.0
6.仕事を通じて成長を実感できる	3,670 13.8	8,237 31.0	9,151 34.4	2,410 9.1	1,969 7.4	1,149 4.3	26,586 100.0
7.仕事は社会に役立っていると感じる	3,965 14.9	8,795 33.1	9,289 34.9	1,911 7.2	1,401 5.3	1,225 4.6	26,586 100.0
8.仕事は人の役に立っていると感じる	4,284 16.1	9,761 36.7	8,490 31.9	1,654 6.2	1,189 4.5	1,208 4.5	26,586 100.0
9.同僚と和気あいあい、協力的に仕事ができている	3,026 11.4	8,703 32.7	9,250 34.8	2,370 8.9	1,944 7.3	1,293 4.9	26,586 100.0
10.外部の関係者と良い関係で、協力的に仕事ができている	2,396 9.0	8,550 32.2	10,528 39.6	1,900 7.1	1,554 5.8	1,658 6.2	26,586 100.0
11.仕事に必要な知識やノウハウを学ぶ機会がある	3,315 12.5	9,230 34.7	8,485 31.9	2,466 9.3	1,901 7.2	1,189 4.5	26,586 100.0
12.顧客との関係で気を使うことが多い	6,039 22.7	8,184 30.8	7,163 26.9	1,868 7.0	2,040 7.7	1,292 4.9	26,586 100.0
13.ミスが無いよう気を使うことが多い	10,477 39.4	9,236 34.7	4,898 18.4	612 2.3	347 1.3	1,016 3.8	26,586 100.0
14.自分の職業では勤続年数に応じて賃金が上昇していく	1,441 5.4	5,155 19.4	7,958 29.9	3,149 11.8	7,368 27.7	1,515 5.7	26,586 100.0
15.自分の職業ではキャリアアップ／昇進の道筋が明確である	935 3.5	3,202 12.0	9,018 33.9	3,980 15.0	7,797 29.3	1,654 6.2	26,586 100.0
16.自分の職業では年収はおおよそ安定している	2,229 8.4	7,155 26.9	8,635 32.5	3,125 11.8	4,069 15.3	1,373 5.2	26,586 100.0
17.自分の職業は引越を伴う転職の可能性が高い方である	1,132 4.3	2,070 7.8	5,825 21.9	3,087 11.6	13,083 49.2	1,389 5.2	26,586 100.0
18.現在の職業をずっと続けていきたいと思う	4,455 16.8	6,195 23.3	9,374 35.3	1,931 7.3	2,874 10.8	1,757 6.6	26,586 100.0

図表4-2 全体としての仕事の現状や状況 (26,586名)



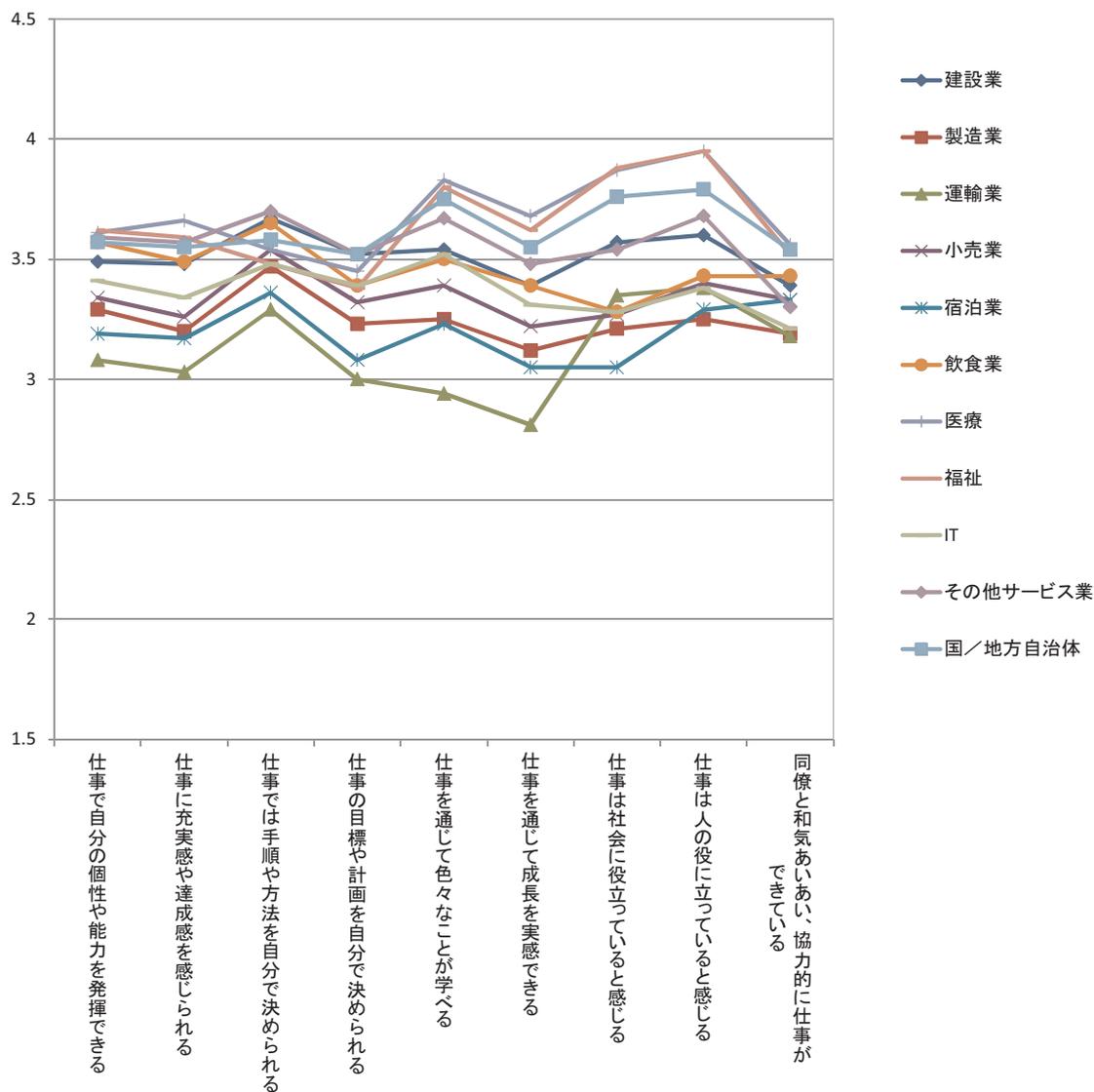
3. 業種別、職種別の仕事の現状や状況

仕事の現状や状況に関する18問について、業種別に回答を集計し平均を求めたのが図表4-3、図表4-4である。集計では「Yes」を5、「ややYes」を4、「どちらともいえない」と「わからない」を3、「ややNo」を2、「No」を1として、平均を求めている。値が高いほどYesが多く、Noが少ないことになる。「わからない」はいずれの設問も5%程度と少なく、回答の意味としても「どちらともいえない」に加えても問題ないと考え、まとめることとした。

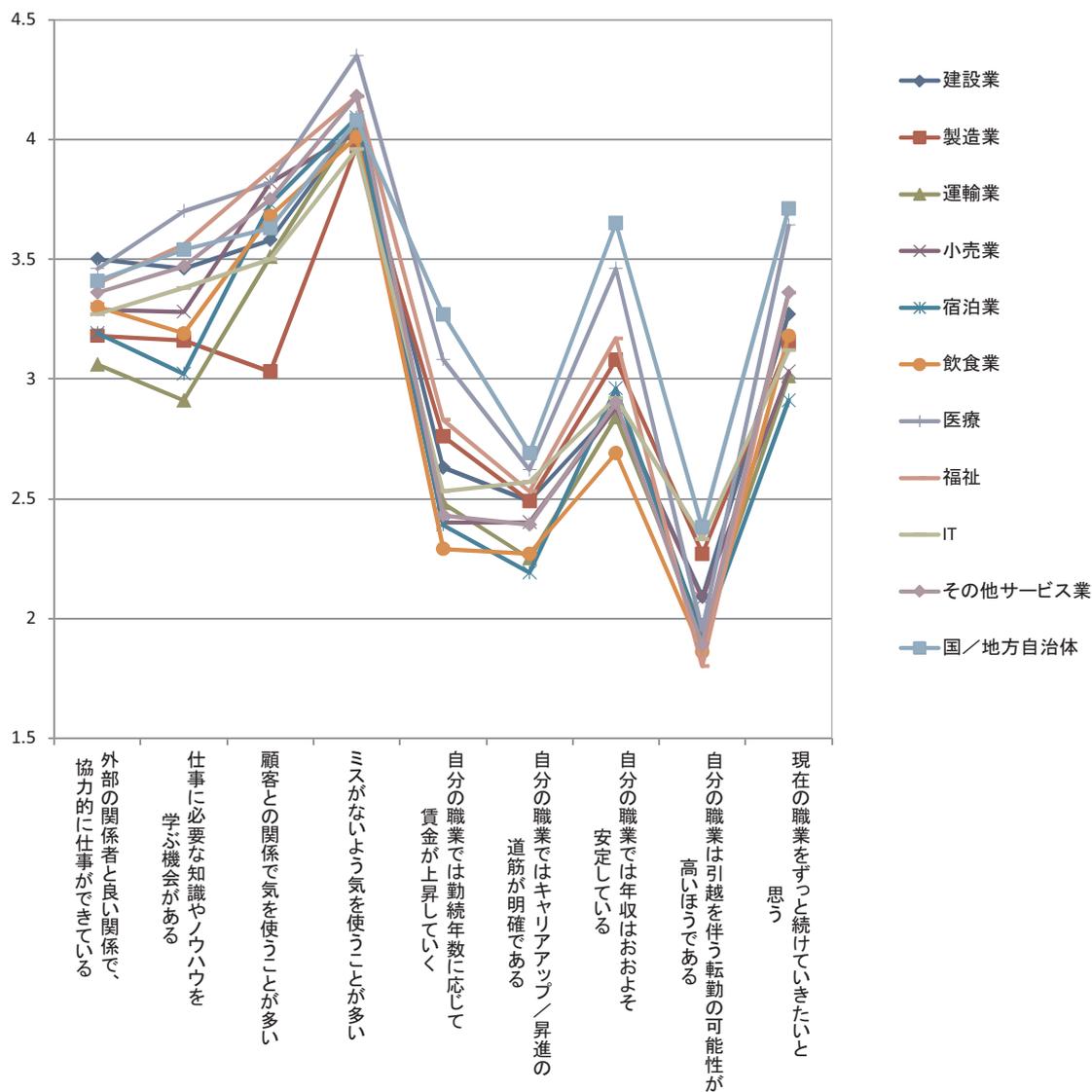
設問の順番に特徴のあるところを見ていくと、「1.仕事で自分の個性や能力を発揮できる」、「2.仕事に充実感や達成感を感じられる」、「3.仕事では手順や方法を自分で決められる」、「4.仕事の目標や計画を自分で決められる」、「5.仕事を通じて色々なことが学べる」、「6.仕事を通じて成長を実感できる」において、運輸業、宿泊業が低い値となっている。「13.ミスが無いよう気を使うことが多い」では医療が最も高い値となっている。「16.自分の職業では年収はおおよそ安定している」、「18.現在の職業をずっと続けていきたいと思う」では国/地方自治体と医療が高くなっている。

同様に職種（厚生労働省編職業分類の職業大分類）別に集計したものが図表4-5、図表4-6である。特徴のあるところを見ていくと、専門的職業が「1.仕事で自分の個性や能力を発揮できる」、「2.仕事に充実感や達成感を感じられる」、「3.仕事では手順や方法を自分で決められる」、「4.仕事の目標や計画を自分で決められる」、「5.仕事を通じて色々なことが学べる」、「6.仕事を通じて成長を実感できる」、「7.仕事は社会に役立っていると感じる」、「8.仕事は人の役に立っていると感じる」が際立って高くなっている。「18.現在の職業をずっと続けていきたいと思う」も専門的職業が際立って高いが、「13.ミスが無いよう気を使うことが多い」も高い。

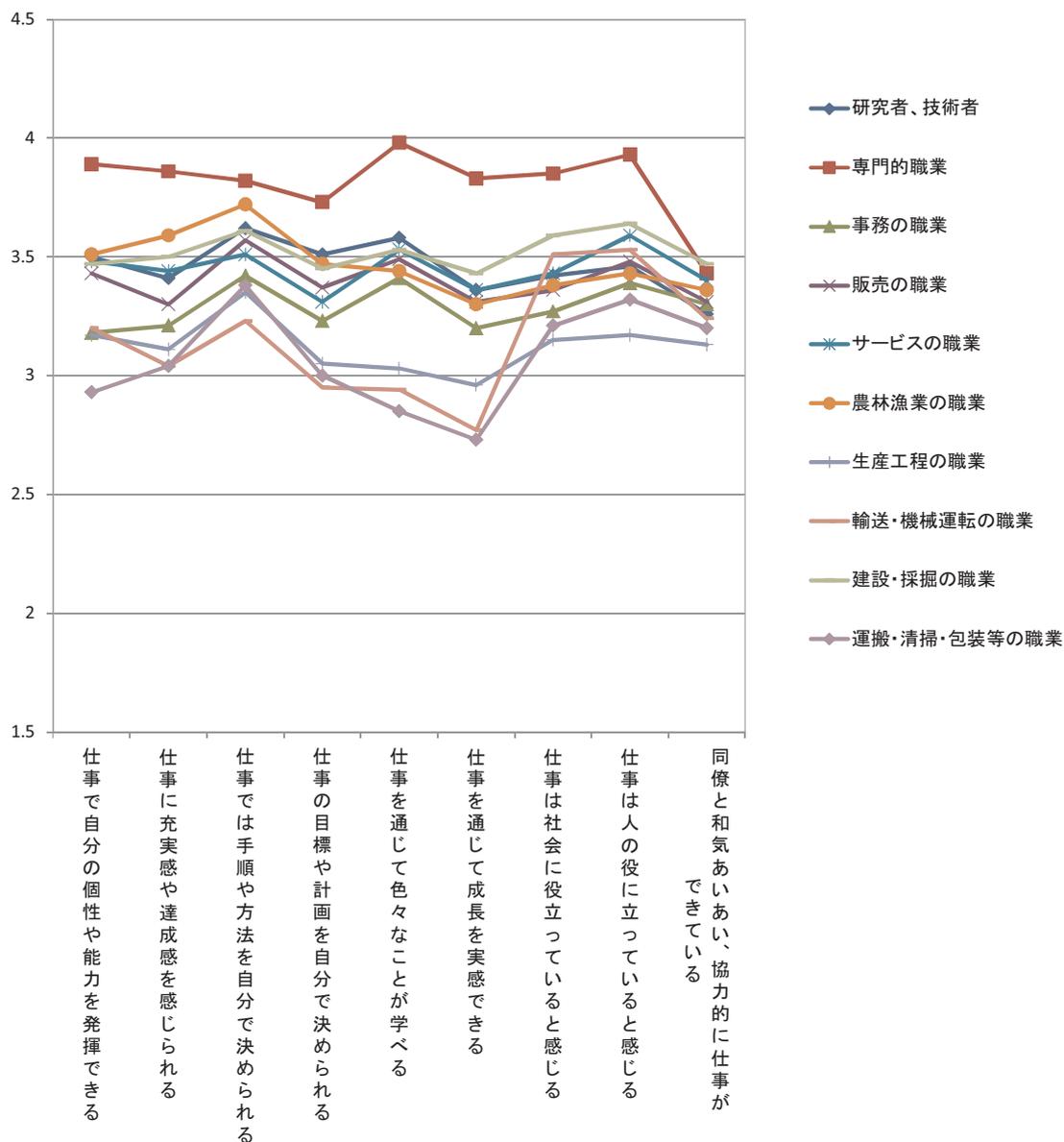
図表4-3 仕事の現状や状況（前半の設問、業種別、26,586名）



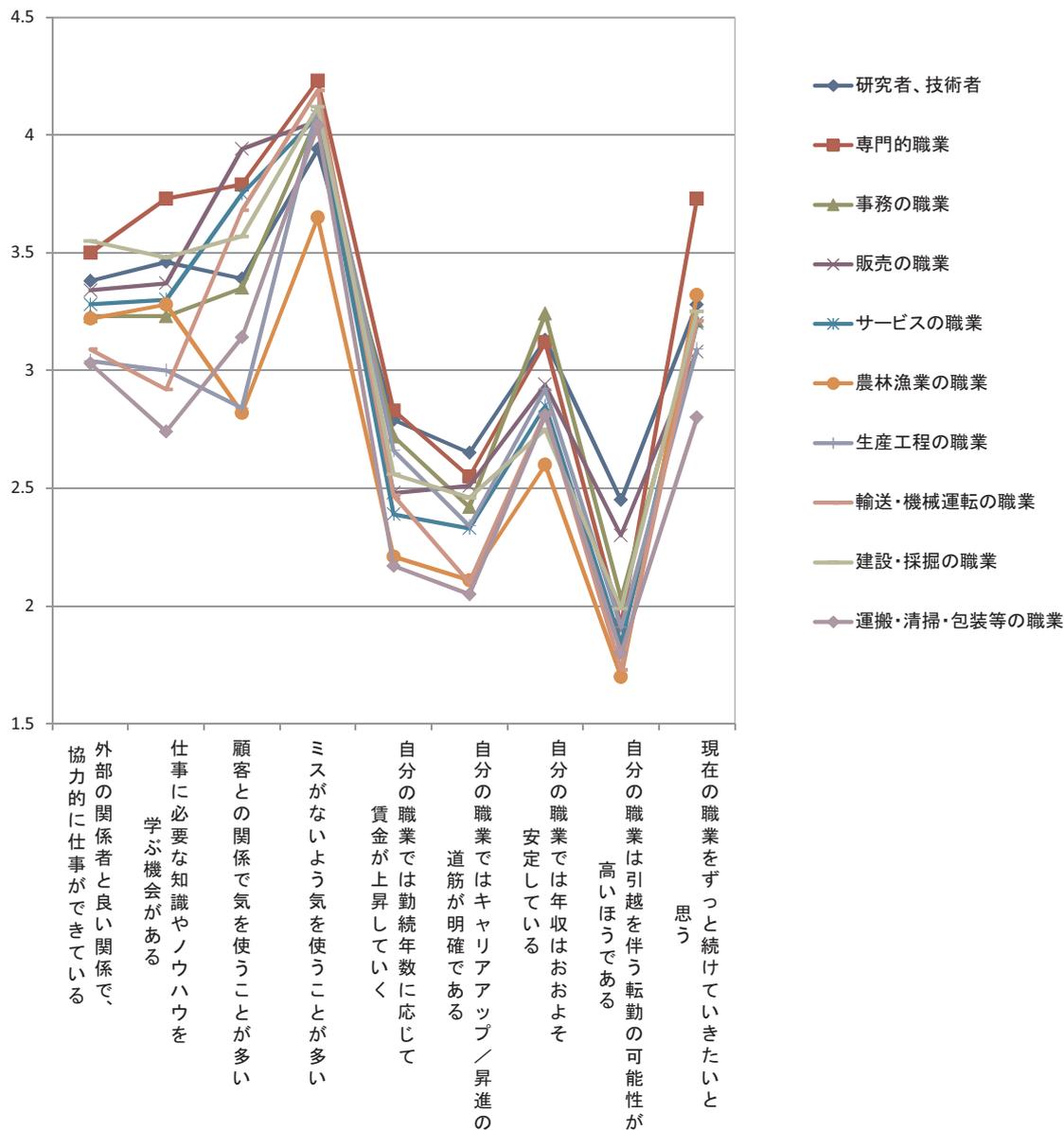
図表4-4 仕事の現状や状況（後半の設問、業種別、26,586名）



図表4-5 仕事の現状や状況（前半の設問、職種別、26,586名）



図表4-6 仕事の現状や状況（後半の設問、職種別、26,586名）



4. 主成分分析、因子分析による仕事の現状や状況の検討

(1) 主成分分析と因子分析による検討

仕事の現状と状況に関する18問の相互関係や意味合いを検討し、何らかの集約ができないかをみるため、主成分分析、因子分析により検討した。

図表4-7は18問に関して主成分分析を行った結果である。主成分を抽出し、直交回転であるバリマックス回転を行っている。第1成分は「仕事は人の役に立っていると感じる」、「仕事は社会に役立っていると感じる」、「同僚と和気あいあい、協力的に仕事ができている」、「外部の関係者と良い関係で、協力的に仕事ができている」等に負荷量が高く、「良い人間関係・人や社会に役立つ」というような仕事の要素と考えられる。第2成分は「仕事の目標や計画を自

分で決められる」、「仕事では手順や方法を自分で決められる」、「仕事で自分の個性や能力を発揮できる」、「仕事に充実感や達成感を感じられる」、「仕事を通じて色々なことが学べる」等に負荷量が高く「自律性・能力発揮・成長」というような仕事の要素と考えられる。第3成分は「自分の職業ではキャリアアップ／昇進の道筋が明確である」、「自分の職業では勤続年数に応じて賃金が上昇していく」、「自分の職業は引越を伴う転勤の可能性が高いほうである」、「自分の職業では年収はおおよそ安定している」に負荷量が高い。「キャリアアップ・賃金上昇」というような仕事の要素といえる。キャリアアップや昇進があり、年収も安定しているが、引越を伴う転勤の可能性が高い点が興味深い。第4成分は「顧客との関係で気を使うことが多い」、「ミスがないよう気を使うことが多い」の負荷量が高く「顧客やミスに気を使う」というような仕事の要素といえる。

因子分析、主成分分析は設定により結果が異なるため、設定を変え因子分析を行った（図表4-8）。主因子法で因子を抽出し、斜交回転であるプロマックス法で回転している。結果は主成分分析と類似しており、第3因子は、第3成分の「キャリアアップ・賃金上昇」と同じであり、第4因子は、第4成分の「顧客やミスに気を使う」と同じである。第2因子がやや異なり、「自律性」、「能力発揮」は第2成分と同じであるが、「仕事を通じて成長を実感できる」、「仕事を通じて色々なことが学べる」等、「成長」は第1因子に混ざっている。もっとも、主成分分析においても、「仕事に必要な知識やノウハウを学ぶ機会がある」は第1成分であり、因子分析において、第1因子と第2因子の相関係数は0.693とかなり高い。第1成分、第2成分、第1因子、第2因子は類似した面があるといえ、「成長」はいずれにまとまる可能性もあるといえる。

第4因子、第4成分の「顧客やミスに気を使う」以外の3つの成分、3つの因子に関しては、アルダファのERG理論として、以前から類似の要素が指摘されている。アルダファは「欲求階層説」で有名なマズロー（Maslow, A. 1943）の考え方を修正、発展させ、人間の欲求として、生存（existence）、関係（relatedness）、成長（growth）の三つがコア（核）であるとしている（Alderfer, C. 1969）。生存とは文字通り生存の欲求であるが、給与、雇用の保障、安全な職場環境等が含まれる。関係とは同僚、友人、家族との人間関係の欲求である。成長とはマズローの自己実現と似ているが、自らの能力を伸ばしたいという欲求である。ERG理論はこのexistence、relatedness、growthの頭文字である。ERG理論はその後の様々な研究でも妥当性が認められている。また、この生存（existence）、関係（relatedness）、成長（growth）は、仕事の魅力に関するWeb調査においても抽出されている（労働政策研究・研修機構、2011）。安定して抽出される仕事の要素ということができよう。

主成分分析において、第1成分の「良い人間関係・人や社会に役立つ」は関係（relatedness）、第2成分の「自律性・能力発揮・成長」は成長（growth）、第3成分の「キャリアアップ・賃金上昇」は生存（existence）に近い要素といえることができる。

主成分分析と因子分析を比較し、回転後の負荷量をみると、主成分分析の方が項目を balan

スよく分けているといえる。また、生存（existence）、関係（relatedness）、成長（growth）との関係では因子分析において、関係（relatedness）が成長（growth）に混ざっており、主成分分析の方が ERG 理論に近い結果といえる。そこで、ここでは、以下、主成分分析の結果を中心にみていくことにする。

図表4-7 仕事の現状や状況の主成分分析（主成分抽出、直交回転、26,586名）

	成分 1	成分 2	成分 3	成分 4
仕事は人の役に立っていると感じる	0.738	0.289	0.020	0.266
仕事は社会に役立っていると感じる	0.730	0.288	0.065	0.235
同僚と和気あいあい、協力的に仕事ができている	0.714	0.101	0.094	0.020
外部の関係者と良い関係で、協力的に仕事ができている	0.613	0.303	0.105	0.144
現在の職業をずっと続けていきたいと思う	0.571	0.328	0.155	-0.103
仕事に必要な知識やノウハウを学ぶ機会がある	0.504	0.431	0.199	0.277
仕事の目標や計画を自分で決められる	0.146	0.831	0.052	0.038
仕事では手順や方法を自分で決められる	0.147	0.805	-0.053	0.042
仕事で自分の個性や能力を発揮できる	0.395	0.695	0.050	0.081
仕事に充実感や達成感を感じられる	0.548	0.618	0.062	0.038
仕事を通じて色々なことが学べる	0.487	0.604	0.096	0.256
仕事を通じて成長を実感できる	0.547	0.604	0.129	0.194
自分の職業ではキャリアアップ／昇進の道筋が明確である	0.161	0.136	0.806	-0.016
自分の職業では勤続年数に応じて賃金が上昇していく	0.196	-0.003	0.790	0.001
自分の職業は引越を伴う転勤の可能性が高いほうである	-0.222	0.085	0.665	0.012
自分職業では年収はおおよそ安定している	0.363	-0.092	0.599	-0.040
顧客との関係で気を使うことが多い	0.047	0.176	0.074	0.844
ミスがないよう気を使うことが多い	0.238	0.005	-0.134	0.749
負荷量平方和	3.884	3.560	2.224	1.624
分散の %	21.6	19.8	12.4	9.0
累積 %	21.6	41.4	53.7	62.7

図表4-8 仕事の現状や状況の因子分析（主因子抽出、斜交回転、26,586名）

	因子 1	因子 2	因子 3	因子 4
仕事は人の役に立っていると感じる	0.994	-0.195	-0.107	0.037
仕事は社会に役立っていると感じる	0.983	-0.192	-0.062	0.001
仕事を通じて成長を実感できる	0.565	0.315	0.024	0.021
仕事に充実感や達成感を感じられる	0.564	0.383	-0.038	-0.133
同僚と和気あいあい、協力的に仕事ができている	0.534	-0.004	0.084	0.000
現在の職業をずっと続けていきたいと思う	0.508	0.145	0.097	-0.150
仕事を通じて色々なことが学べる	0.456	0.351	0.004	0.108
外部の関係者と良い関係で、協力的に仕事ができている	0.452	0.151	0.074	0.089
仕事に必要な知識やノウハウを学ぶ機会がある	0.412	0.203	0.130	0.164
仕事の目標や計画を自分で決められる	-0.108	0.871	0.001	0.008
仕事では手順や方法を自分で決められる	-0.077	0.833	-0.096	0.011
仕事で自分の個性や能力を発揮できる	0.345	0.514	-0.036	-0.049
自分の職業ではキャリアアップ／昇進の道筋が明確である	0.001	0.039	0.783	-0.015
自分の職業では勤続年数に応じて賃金が上昇していく	0.022	-0.070	0.765	0.014
自分の職業では年収はおおよそ安定している	0.195	-0.116	0.504	-0.029
自分の職業は引越を伴う転勤の可能性が高いほうである	-0.150	-0.007	0.463	-0.013
顧客との関係で気を使うことが多い	-0.093	0.047	0.053	0.756
ミスがないよう気を使うことが多い	0.162	-0.071	-0.120	0.510
負荷量平方和	5.995	4.876	2.412	2.218

因子間相関行列

	因子 1	因子 2	因子 3
因子 2	0.693		
因子 3	0.352	0.242	
因子 4	0.473	0.330	0.052

(2) 抽出された要素からみた業種や職種

検討してきた主要な要素（成分）である「良い人間関係・人や社会に役立つ」、「自律性・能力発揮・成長」、「キャリアアップ・賃金上昇」、「顧客やミスに気を使う」の成分得点を求め、業種別に平均値を求めたのが図表 4-9 である。成分得点は全体の平均値が 0 になるため、各業種の平均値は、他の業種と相対的に比較して得点が高いかどうかを示したものである。

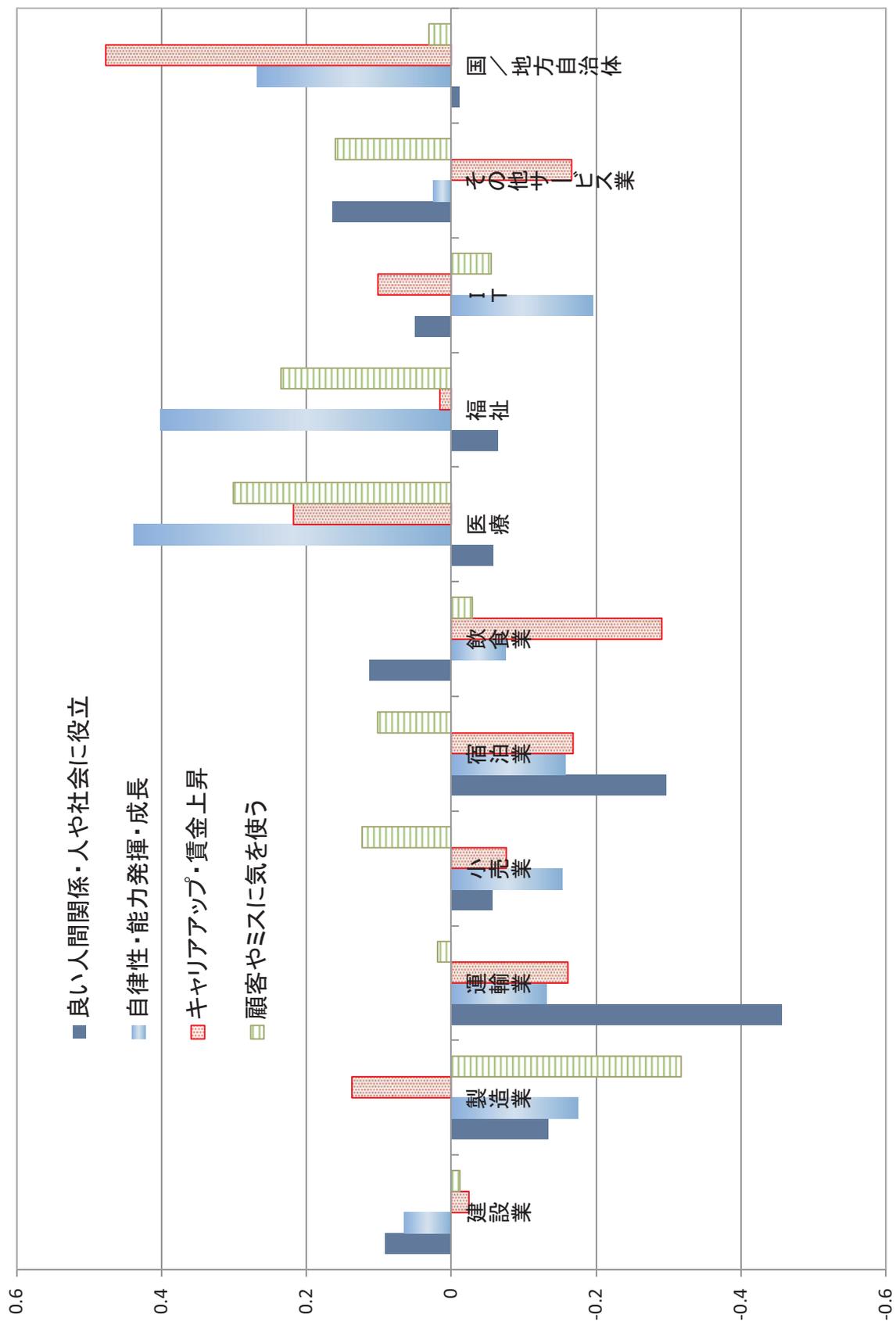
特徴のあるところをみていくと、医療では「自律性・能力発揮・成長」、「キャリアアップ・賃金上昇」、「顧客やミスに気を使う」が高い。福祉では「自律性・能力発揮・成長」、「顧客やミスに気を使う」が高くなっている。国／地方自治体では「自律性・能力発揮・成長」、「キャリアアップ・賃金上昇」が高くなっている。一方、運輸業、宿泊業では「良い人間関係・人や社会に役立つ」が低い。飲食業では「キャリアアップ・賃金上昇」が低くなっている。

同様に 4 つの成分得点を職種別に集計し平均値を求めたのが図表 4-10 である。特徴のあるところを見ていくと、専門的職業は「良い人間関係・人や社会に役立つ」、「自律性・能力発揮・成長」は高いが、「顧客やミスに気を使う」も高い。農林漁業の職業では「キャリアアップ・賃金上昇」、「顧客やミスに気を使う」が低い。輸送・機械運転の職業、運搬・清掃・包装等

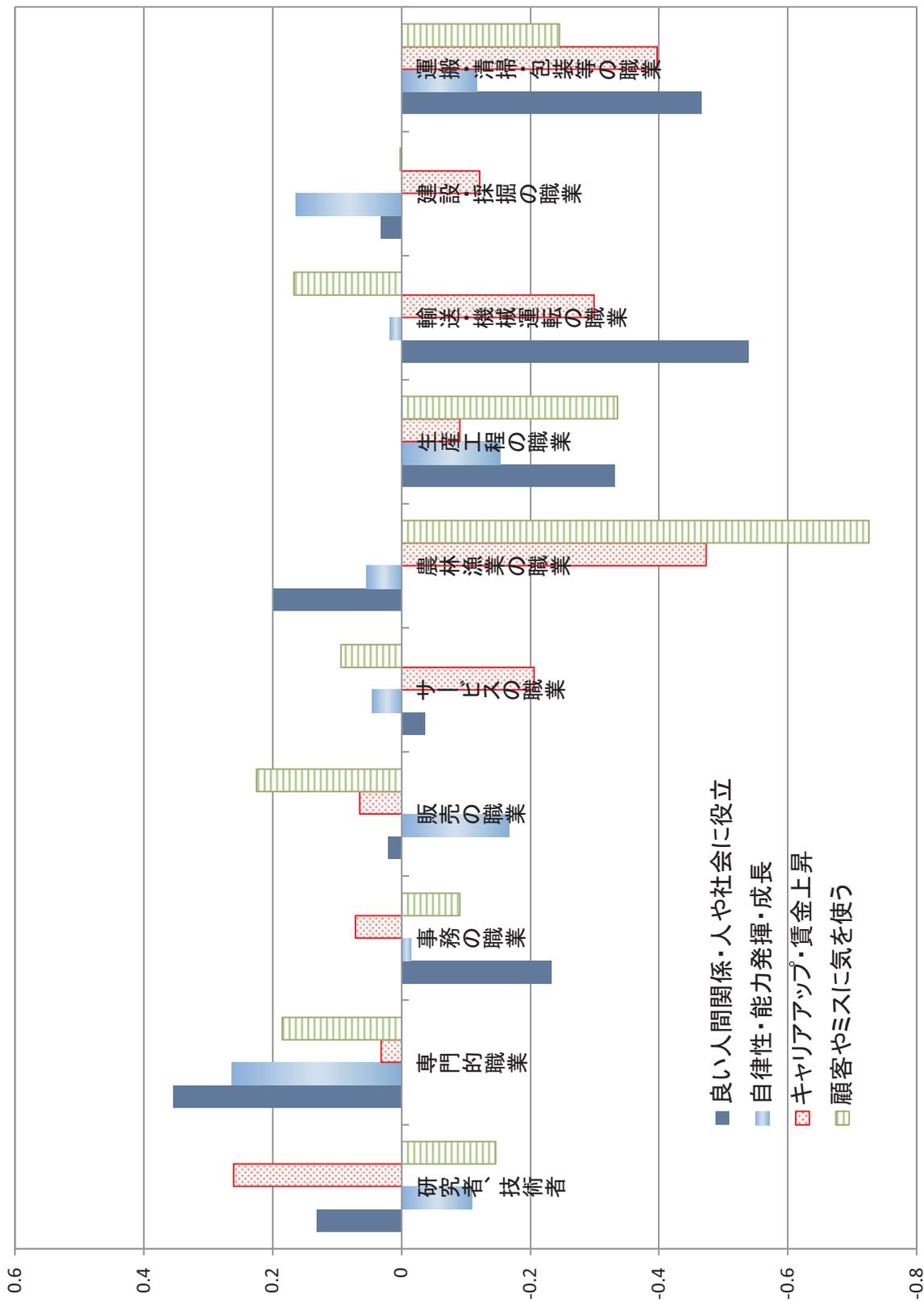
の職業では「良い人間関係・人や社会に役立」、「キャリアアップ・賃金上昇」が低い。

大きくりの職業でみてきたが、細かい具体的な職業でみると（職業細分類）、「良い人間関係・人や社会に役立」では、「イラストレーター」、「音楽家（作曲者、指揮者、演奏家、声楽家など）」、「美容師」、「経営コンサルタント（中小企業診断士など）」、「写真家（営業写真家、商業カメラマン、報道カメラマンなど）」等が高い成分得点となっていた。「自律性・能力発揮・成長」では、「幼稚園教員」、「保育士」、「診療放射線技師」、「臨床検査技師（衛生検査技師を含む）」、「理学療法士」が高い成分得点であった。「キャリアアップ・賃金上昇」では、「医薬情報担当者（MR）・医薬品卸販売担当者（MS）」、「農林水産技術者（農業・畜産・林業・水産業の普及指導員など）」、「中学校教員」、「特別支援学校教員」、「小学校教員」の成分得点が高かった。「顧客やミスに気を使う」では、「銀行等渉外係（銀行、信用金庫、信用協同組合など）」、「医薬情報担当者（MR）・医薬品卸販売担当者（MS）」、「保険代理人（保険代理店での保険契約などの代理・媒介）」、「路線バス運転手（乗合バス、高速バス、観光路線バス、コミュニティバスなど）」、「税理士」などが高い成分得点であった。

図表4-9 主成分分析の成分からみた仕事の現状や状況（業種別、26,586名）



図表4-10 主成分分析の成分からみた仕事の現状や状況（職種別、26,586名）



5. 仕事の現状や状況と職業満足、職業継続希望との関係

仕事の現状と状況の最後に「現在の職業をずっと続けていきたいと思う」の設問がある（「職業継続希望」）。また、仕事の現状や状況の設問の次に「全体として現在の職業面の満足度を0～100（満点）で表すと何点になりますか。だいたい満足しているを50として、点数化してください。」という設問がある（「職業満足」）。ここではこれらの項目と仕事の現状や状況の17項目の関係をみていく。

図表4-11は、仕事の現状や状況の17項目と「現在の職業をずっと続けていきたいと思う」（「職業継続希望」）、100点満点の職業満足度を10段階にした「職業満足（10段階）」、「職業満足度（100点満点）」の相関係数をみたものである。「職業満足（10段階）」と「職業満足度（100点満点）」は100点満点を10段階にしたものであるため相関は高い（0.995）。職業継続希望と職業満足（2種類）は0.517となっており、意外と高くはない。職業満足と職業継続希望の間に色々な背景、例えば、一部不満はあるが自分の能力や経歴を生かせるため続けていきたい、仕事には満足はしていないが同僚や関係者と良い人間関係であり続けていきたい等、様々な事情が考えられる。

17項目との関係では、職業満足との相関係数が大きいものから並べており、相関係数が大きい項目から「仕事に充実感や達成感を感じられる」、「仕事を通じて成長を実感できる」、「仕事で自分の個性や能力を発揮できる」、「仕事を通じて色々なことが学べる」、「仕事は社会に役立っていると感じる」、「仕事は人の役に立っていると感じる」、「同僚と和気あいあい、協力的に仕事ができている」、「仕事に必要な知識やノウハウを学ぶ機会がある」、「外部の関係者と良い関係で、協力的に仕事ができている」となっており、先の主成分分析、因子分析における「良い人間関係・人や社会に役立つ」、「自律性・能力発揮・成長」に含まれる項目との関係が強いといえる。

「現在の職業をずっと続けていきたいと思う」（「職業継続希望」）では「仕事に充実感や達成感を感じられる」、「仕事を通じて成長を実感できる」、「仕事は社会に役立っていると感じる」、「仕事で自分の個性や能力を発揮できる」、「仕事を通じて色々なことが学べる」、「仕事は人の役に立っていると感じる」、「仕事に必要な知識やノウハウを学ぶ機会がある」、「外部の関係者と良い関係で、協力的に仕事ができている」、「同僚と和気あいあい、協力的に仕事ができている」、「仕事の目標や計画を自分で決められる」、「仕事では手順や方法を自分で決められる」の順に相関係数が高い。これらも、主成分分析、因子分析における「良い人間関係・人や社会に役立つ」、「自律性・能力発揮・成長」の項目である。

次に職業継続希望、職業満足との関係をみるため回帰分析を行った。17項目は相互に相関があり、前述のような成分や因子も抽出されていることから、ここでは主成分分析によって得られた4成分と職業継続希望、職業満足の関係をみることにした。先の主成分分析は職業継続希望を含む18項目で行っているため（図表4-7）、17項目で主成分分析をやり直した結果を図表4-12に示す。第1成分、第2成分の順番が入れ替わっているが、図表4-7と同じく、「自律性・

能力発揮・成長」、「良い人間関係・人や社会に役立」、「キャリアアップ・賃金上昇」、「顧客やミスに気を使う」の4つの成分となっている。

図表 4-13 が職業継続希望に対する4成分の回帰分析の結果である。回帰分析の R は 0.571 であり、R 自乗は 0.326 とそれほど説明率が高いわけではないが、成分との関係としては、「良い人間関係・人や社会に役立」、「自律性・能力発揮・成長」、「キャリアアップ・賃金上昇」の順にプラスの関係があり、「顧客やミスに気を使う」との関係は小さい。なお、サンプル数が 26,586 名と多いこともあり、R や R 自乗は大きくはないが、回帰分析のモデル全体も4つの成分に対する回帰係数もすべて有意となっている。

職業満足（10段階）との関係を見ると（図表 4-14）、回帰分析の R は 0.546、R 自乗は 0.298 であり、こちらの説明率はそれほど高くないが、「良い人間関係・人や社会に役立」、「自律性・能力発揮・成長」、「キャリアアップ・賃金上昇」の順にプラスの関係があり、「顧客やミスに気を使う」とはマイナスの関係となっている。なお、回帰分析のモデル全体も4つの成分に対する回帰係数もすべて有意となっている。

図表4-11 職業満足、職業継続希望との相関係数（26,586名）

		現在の職業をずっと続けたいと思う	職業満足（10段階）	職業満足度（100点）
1	仕事に充実感や達成感を感じられる	0.522	0.491	0.492
2	仕事を通じて成長を実感できる	0.475	0.418	0.419
3	仕事で自分の個性や能力を発揮できる	0.435	0.381	0.382
4	仕事を通じて色々なことが学べる	0.427	0.369	0.370
5	仕事は社会に役立っていると感じる	0.438	0.367	0.370
6	仕事は人の役に立っていると感じる	0.425	0.362	0.364
7	同僚と和気あいあい、協力的に仕事ができている	0.339	0.348	0.350
8	仕事に必要な知識やノウハウを学ぶ機会がある	0.384	0.337	0.338
9	外部の関係者と良い関係で、協力的に仕事ができている	0.351	0.334	0.336
10	仕事の目標や計画を自分で決められる	0.338	0.294	0.296
11	自分職業では年収はおおよそ安定している	0.258	0.289	0.288
12	仕事では手順や方法を自分で決められる	0.316	0.272	0.273
13	自分の職業ではキャリアアップ／昇進の道筋が明確である	0.245	0.261	0.261
14	自分の職業では勤続年数に応じて賃金が上昇していく	0.211	0.221	0.220
15	自分の職業は引越を伴う転勤の可能性が高いほうである	0.021	0.040	0.039
16	顧客との関係で気を使うことが多い	0.089	0.028	0.027
17	ミスがないよう気を使うことが多い	0.130	0.026	0.025
	現在の職業をずっと続けたいと思う	1.000	0.517	0.517
	職業満足 10段階	0.517	1.000	0.995
	職業満足度 100点満点	0.517	0.995	1.000

注) 目安として、相関係数が 0.300 以上のものに着色をしている。

図表4-12 職業継続希望を除く17項目での主成分分析（主成分抽出、直交回転、26,586名）

	成分1	成分2	成分3	成分4
仕事の目標や計画を自分で決められる	0.835	0.113	0.050	0.025
仕事では手順や方法を自分で決められる	0.810	0.113	-0.054	0.032
仕事で自分の個性や能力を発揮できる	0.721	0.345	0.060	0.090
仕事に充実感や達成感を感じられる	0.653	0.490	0.075	0.056
仕事を通じて成長を実感できる	0.635	0.511	0.140	0.190
仕事を通じて色々なことが学べる	0.631	0.459	0.104	0.247
同僚と和気あいあい、協力的に仕事ができている	0.124	0.752	0.098	-0.035
仕事は人の役に立っていると感じる	0.331	0.726	0.035	0.255
仕事は社会に役立っていると感じる	0.330	0.713	0.080	0.227
外部の関係者と良い関係で、協力的に仕事ができている	0.318	0.650	0.103	0.083
仕事に必要な知識やノウハウを学ぶ機会がある	0.451	0.502	0.202	0.249
自分の職業ではキャリアアップ／昇進の道筋が明確である	0.147	0.139	0.809	-0.018
自分の職業では勤続年数に応じて賃金が上昇していく	0.015	0.171	0.798	0.010
自分の職業は引越を伴う転勤の可能性が高いほうである	0.063	-0.212	0.651	-0.009
自分の職業では年収はおおよそ安定している	-0.061	0.330	0.614	-0.019
顧客との関係で気を使うことが多い	0.173	0.057	0.067	0.835
ミスがないよう気を使うことが多い	0.026	0.219	-0.126	0.776
負荷量平方和	3.699	3.387	2.226	1.597
分散の %	21.8	19.9	13.1	9.4
累積 %	21.8	41.7	54.8	64.2

図表4-13 仕事の要素（主成分分析の成分）から職業継続希望への回帰分析（26,586名）

	回帰係数	標準化係数
(定数)	3.279	
自律性・能力発揮・成長	0.415	0.359
良い人間関係・人や社会に役立	0.474	0.411
キャリアアップ・賃金上昇	0.193	0.168
顧客やミスに気を使う	0.026	0.023

図表4-14 仕事の要素（主成分分析の成分）から職業満足への回帰分析（26,586名）

	回帰係数	標準化係数
(定数)	5.833	
自律性・能力発揮・成長	0.697	0.311
良い人間関係・人や社会に役立	0.887	0.395
キャリアアップ・賃金上昇	0.448	0.199
顧客やミスに気を使う	-0.171	-0.076

なお、「現在の職業をずっと続けていきたいと思う」（「職業継続希望」）について、100名以上集まっている職業細分類に関して、職業毎の平均値を求めると、高い職業としては（職

業名順)、「イラストレーター」、「医師」、「音楽家(作曲者、指揮者、演奏家、声楽家など)」、「大学教員」、「写真家(営業写真家、商業カメラマン、報道カメラマンなど)」となっており、自分の能力や才能を発揮できていると考えられる職業であった。同様に、職業満足(100点満点)について平均値を求めると、高い職業としては(職業名順)、「医師」、「経営コンサルタント(中小企業診断士など)」、「作業療法士」、「大学教員」、「理学療法士」となり、人と接し、人に役立つことが実感できるといえる職業であった。この点は、先に述べた、職業継続希望と職業満足の相関係数がそれほど高くない理由の一端を示していると考えられる。

6. 生活面、必要な能力他、属性他を加えた職業継続希望、職業満足との関係

職業継続希望(「現在の職業をずっと続けていきたいと思う」)、職業満足(「全体として現在の職業面の満足度を0~100(満点)で表すと何点になりますか。だいたい満足しているを50として、点数化してください。」を10段階にしたもの)に関して、仕事の生活への影響、属性、勤め先等も加え、さらに検討を行った。

仕事に関しては仕事の現状や状況の17項目から求められた4成分(「自律性・能力発揮・成長」、「良い人間関係・人や社会に役立つ」、「キャリアアップ・賃金上昇」、「顧客やミスに気を使う」)、仕事に必要な能力他に関しては第6章で検討している6成分(「マナー・コミュニケーション」、「情報スキル・交渉力・説明力」、「人間的魅力」、「意欲・主体性・熱心さ」、「ミスがないこと・集中力」、「体力・スタミナ・健康」)、生活に関しては第7章で検討しているが、そこで求められた3成分(「疲れ・心配」、「不規則・夜間勤務」、「休日に呼び出し等」)、さらに年齢段階(1=29歳まで、2=30歳代、3=40歳代、4=50歳代、5=60歳以上)、年収(1=50万円以下、2=50~100万円、3=101~200万円、4=201~300万円、5=301~400万円、6=401~500万円、7=501~600万円、8=601~700万円、9=701~800万円、10=801~1,000万円、11=1,000万円以上)、結婚(1=結婚している、2=結婚していない)、職位(1=一般、2=係長・主任相当、3=課長相当、4=部長・次長相当、5=経営層)、企業規模(1=1~30名、2=31~300名、3=301名~3,000名、4=3,001名以上)、性別(1=男性、2=女性)、学歴(1=高校卒、2=専門学校卒、3=短大卒、4=大学卒、5=大学院卒)を加え、全体で回帰分析した。職位の「その他」と学歴の「その他」はデータから除外した。このため分析データは、23,821名となっている。

図表4-15が職業継続希望への回帰の結果である。モデルのRは0.597、R自乗は0.356であった。先の仕事の現状や状況の成分のみからの回帰において、R自乗は0.326であり(図表4-13)、説明率はあまり高まらず、加えた要因の影響は少ないといえる。図表では標準化回帰係数の絶対値が大きいものから並べている。標準化回帰係数は先の仕事の現状や状況の成分が大きい、加えた項目の中で、仕事の生活への影響の「疲れ・心配」が-0.099と続いており、仕事の生活への影響が職業継続希望にも関係している。

図表 4-16 が職業満足への回帰の結果である。モデルの R は 0.590、 R 自乗は 0.349 であった。先の仕事の現状や状況の成分のみからの回帰において、 R 自乗は 0.298 であり（図表 4-14）、説明率が僅かに高まっている。図表では標準化回帰係数の絶対値が大きいものから並べているが、加えた要因の中では、仕事の生活への影響の「疲れ・心配」と年収が大きい。「疲れ・心配」は職業満足にマイナスの効果となることを示している。また、年収はプラスの効果を持つことを示している。

このモデルでは学歴が標準化係数で 0.0 となり、影響がないことになるが、100 点満点の職業満足では、高校卒、専門学校卒、短大卒、大学卒、大学院卒がそれぞれ、平均が 55、57、58、58、62 となっており、学歴とともに僅かではあるが職業満足が上がっている。回帰分析の多重共線性が影響し、仕事の「自律性・能力発揮・成長」、「良い人間関係・人や社会に役立」、「キャリアアップ・賃金上昇」等と学歴は相関があり、この中に埋没していることも考えられる。

この多重共線性に関しては、ここで用いた仕事、生活、能力他の各成分は直交回転で求めているため、それぞれの成分に関しては無相関であり、無いことを仮定できるが、仕事、生活、能力他の成分間、また、属性他との間ではそれほど強くはないが相互に相関があり、この影響によって、学歴と同様に、標準化回帰係数が下がっていることも考えられる。

図表4-15 生活、能力他、属性他を加えた職業継続希望への回帰分析（23,821名）

		回帰係数	標準化係数
(定数)		2.981	
仕事	良い人間関係・人や社会に役立	0.437	0.379
仕事	自律性・能力発揮・成長	0.368	0.313
仕事	キャリアアップ・賃金上昇	0.218	0.187
生活	疲れ・心配	-0.114	-0.099
属性他	年齢段階	0.079	0.068
属性他	年収	0.031	0.064
仕事	顧客やミスに気を使う	0.057	0.050
属性他	結婚	-0.075	-0.032
必要な能力他	ミスがないこと・集中力	0.036	0.032
生活	不規則・夜間勤務	-0.035	-0.031
属性他	職位	0.024	0.027
属性他	企業規模	-0.025	-0.023
生活	休日に呼び出し等	-0.026	-0.023
必要な能力他	意欲・主体性・熱心さ	0.025	0.021
必要な能力他	情報スキル・交渉力・説明力	-0.022	-0.020
必要な能力他	体力・スタミナ・健康	0.020	0.018
属性他	性別	0.040	0.016
必要な能力他	人間的魅力	-0.010	-0.009
属性他	学歴	-0.006	-0.008
必要な能力他	マナー・コミュニケーション	-0.003	-0.003

注) 標準化回帰係数の絶対値が大きい順としている。仕事、生活、属性他、能力他の分野ごとに異なる色で着色をしている。

図表4-16 生活、能力他、属性他を加えた職業満足への回帰分析（23,821名）

		回帰係数	標準化係数
	(定数)	4.873	
仕事	良い人間関係・人や社会に役立つ	0.753	0.334
仕事	自律性・能力発揮・成長	0.643	0.281
仕事	キャリアアップ・賃金上昇	0.403	0.177
生活	疲れ・心配	-0.389	-0.173
属性他	年収	0.117	0.124
属性他	性別	0.380	0.077
生活	休日に呼び出し等	-0.150	-0.066
必要な能力他	意欲・主体性・熱心さ	0.084	0.037
必要な能力他	ミスがないこと・集中力	0.073	0.033
必要な能力他	情報スキル・交渉力・説明力	-0.064	-0.028
属性他	結婚	-0.129	-0.028
仕事	顧客やミスに気を使う	-0.056	-0.025
生活	不規則・夜間勤務	-0.053	-0.024
属性他	年齢段階	0.051	0.023
必要な能力他	人間的魅力	-0.042	-0.019
必要な能力他	体力・スタミナ・健康	-0.023	-0.010
属性他	企業規模	-0.019	-0.009
属性他	職位	0.015	0.009
必要な能力他	マナー・コミュニケーション	0.004	0.002
属性他	学歴	0.000	0.000

注) 標準化回帰係数の絶対値が大きい順としている。仕事、生活、属性他、能力他の分野ごとに異なる色で着色をしている。

7. 仕事の現状や状況のまとめ

ここでは仕事の現状と状況に関する18問と「職業満足」の設問についてみてきた。全体としては「ミスがないよう気を使うことが多い」が多く、職業全般にこのような傾向が強いことがわかる。業種別、職種別にみると、その業種、その職種の一般の印象やイメージに沿った傾向が具体的な数値として示された。

仕事の現状と状況に関する18問を主成分分析、因子分析で検討すると、「良い人間関係・人や社会に役立つ」、「自律性・能力発揮・成長」、「キャリアアップ・賃金上昇」、「顧客やミスに気を使う」という仕事の4つの要素が抽出された。最初の三つはアルダファの関係（relatedness）、成長（growth）、生存（existence）に近い要素と考えられた。

この4要素と職業継続希望（「現在の職業をずっと続けていきたいと思う」）との関係のみ

ると、「良い人間関係・人や社会に役立」、「自律性・能力発揮・成長」、「キャリアアップ・賃金上昇」の順にプラスの関係がみられた。職業満足との関係では「良い人間関係・人や社会に役立」、「自律性・能力発揮・成長」、「キャリアアップ・賃金上昇」の順にプラスの関係、「顧客やミスに気を使う」とは弱いマイナスの関係がみられた。また、職業継続希望と職業満足に関して、仕事の要素以外の仕事から生活への影響、必要とされる能力他、年齢、性別他の属性や年収等、影響が考えられるものを加え、回帰分析を行った。この結果は職業継続希望に関しては仕事の生活への影響の「疲れ・心配」がマイナスの関係となり、職業満足に関しては、仕事の要素に加えて、「疲れ・心配」がマイナス、年収がプラスの影響となっていた。

業界や職業に関しては世の中には様々な情報があるが、主観的であったり、断片的であったり、また、事例やケースのような情報であるものが大半である。このような情報から業界や職種に対する印象やイメージが形成されているといえる。ここでは仕事の現状や状況に関して、多面的な側面からデータに基づき数値化し、プロフィールを描くことができた。また、仕事の現状や状況において、どのような要素がありその要素が相互にどのような関係があるかみることができた（主成分分析、因子分析の部分）。そして、職業継続希望や職業満足に対して、仕事の現状や状況の各要素がどのように関係しているかみることができた（回帰分析の部分）。

文 献

Alderfer, C. P. (1969). An empirical test of a new theory of human needs. *Organizational Behavior and Human Performance*, 4, 142-175.

Maslow, A. H. (1943). A theory of human motivation. *Psychological Review*, 50, 370-396.

労働政策研究・研修機構（2011）. 求人企業サービスに関する研究—仕事魅力、求人充足、求人開拓、事業所訪問、他— JILPT 資料シリーズ No. 85.